

B-12 日本人女子（6～17歳）の体型に関する 一考察

千葉大 ○須貝 容子
お茶の水女子大 奥山 明子
長谷部ヤエ

1. お茶の水女子大学被服構成学研究室では、日本人の体型に関する研究を行なっているが、今回は衣服寸法に關係の深い身体部位として、胸囲・胴囲・腰囲・背肩幅・背丈・袖丈の絶対値6項目と、胴囲/胸囲・腰囲/胸囲・背肩幅/胸囲・背肩幅/身長・背丈/身長・袖丈/身長を示数値6項目、合計12項目を取りあげ、主としてプロポーションによる体型の年齢的变化について考察を試みた。

2. 資料は同研究室において、1957～60年に調査した日本人女子1,300人（東京都在住者6～17歳）の計測原票である。12項目の年齢別平均値を用いて考察を行なった。

3. 絶対値6項目については、各項目とも10～11歳間の増加率が著しい。

胴囲/胸囲は加齢と共に著しく減少、腰囲/胸囲は10歳以後漸減の傾向を示し、年少時のずんどう型から成人の胴部のくびれた体型に近づいてゆく。背肩幅/胸囲は加齢と共に漸減するが、背肩幅/身長はほとんど変化を示さない。背丈/身長は11歳以後わずかに漸増し、袖丈/身長は全年齢を通じてほぼひとしい。対身長示数値よりも、対胸囲示数値の方が加齢による増減が顕著であり、体型の年齢的变化は、対胸囲示数により明確に現われる。